

The 17th Academic Conference Japanese Society of Nursing Art and Science

# 日本看護技術学会 第17回 学術集会

講演抄録集

青森

# 看護技術の ちから

実践のジレンマの  
ブレイクスルー

*Nursing art and science*

2018年 9月

日本看護技術学会 第17回学術集会

会長 角濱 春美



The 17th Academic Conference Japanese Society of Nursing Art and Science

# 日本看護技術学会 第17回 学術集会

講演抄録集

## 看護技術の ちから

実践のジレンマの  
ブレイクスルー

*Nursing Art and Science*

2018年 9月 青森

日本看護技術学会 第17回学術集会

会長 角濱 春美

会場 青森県立保健大学



# 日本看護技術学会第17回学術集会

## 挨拶

日本看護技術学会第17回学術集会

会長 角濱 春美

青森県立保健大学健康科学部・健康科学研究科

青森県立保健大学で2度目の日本看護技術学会学術集会を開催することになり、たいへん光栄に感じています。1度目の第7回大会からちょうど10年が経過しました。さて、この10年間で社会は、看護はどのように変わったのでしょうか？

看護“care”は、人の営みが起源となり、近代に職業化したものです。相手の自己実現を助けるために専心して個別的に関わり、ケアの行為や相手の自己実現が、ケアを行った者の喜びとなる、というケアの形態は、変わることはない本質です。しかしながら、職業としての看護は、社会の変化を無視することはできません。看護師が感じるジレンマはここ10年でさらに大きくなっていると思います。

本学術集会ではこのようなジレンマを取り上げ、問題を考える材料を提示したいと考え、『看護技術のちから－実践のジレンマのブレイクスルー』というテーマとしました。

取り上げたいジレンマのアイデアは数多く集まりましたが、臨床実践に活かす緊急性の高いものをと、苦渋の決断で5つに絞り、キーセッションとしました。なるべく多くの側面からジレンマを検討できるように、研究手法や看護の場や経験が異なる方々をスピーカーにお願いしました。スピーカーの方々の化学反応も楽しみです、是非、参加者の皆様も議論に参加して頂きたいと願っています。

また、本学会ではキーセッションに加え、今後の希望になるような、新しい問題提起になる題材としてシーズセッションを2題用意しました。いずれも個性的なテーマですし、現役のイタコに来ていただけることになりましたので、是非聞いて頂きたいと思います。

更に、どうしても実現しなかったセッションが「事例」を語るリレーセッションです。このセッションでは映写等を用いず、ゆっくりと経験を語って頂きます。患者さんと出会い、共にケアされる経験を通して看護の喜びは感じるとれるものです。時間に追われる教育や臨床実践の中で、ゆっくりと看護の経験を語る機会が減っています。是非、これから看護を目指す人に、少し看護に疲れている方に、ゆっくりと聞いて頂きたいセッションです。

一般演題、交流セッションも魅力的な題材が集まっております。本学会がテーマとして掲げてきた「研究と臨床との出会い」、「来て良かった学会」が体現できる内容となっていると感じます。

多様性を個別的に認め、寛容することを理念として持つ「看護師」は、今後の社会の希望となる職業です。看護のちからを再発見する学会になりますように、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

# 会場アクセス図

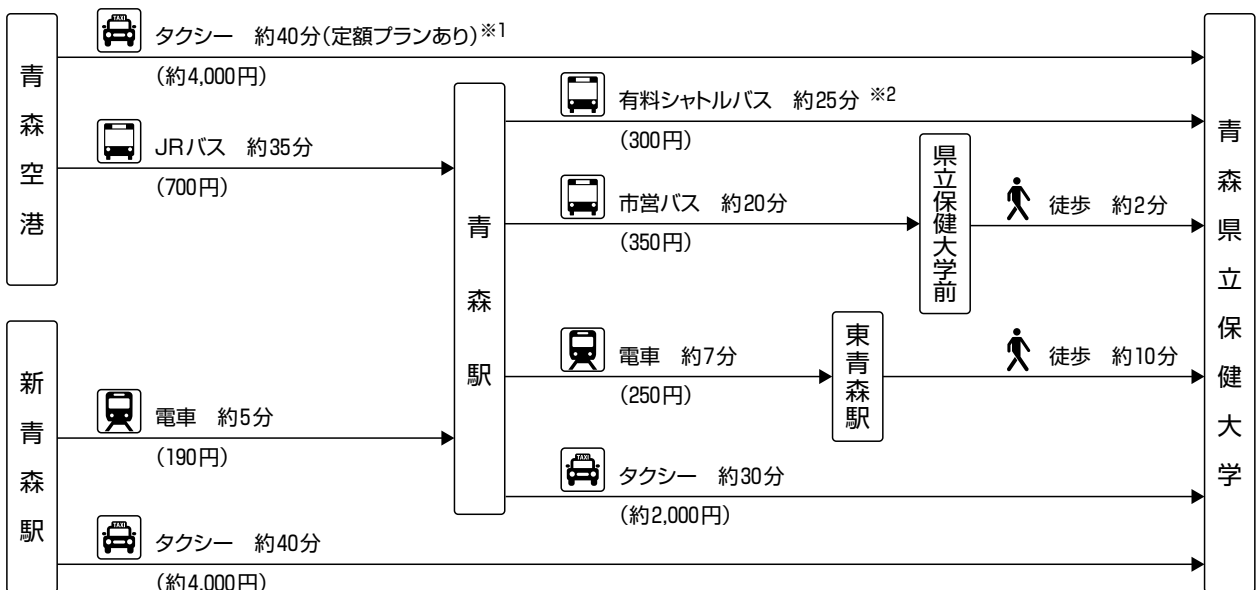
会場：青森県立保健大学 〒030-8505 青森市浜館字間瀬 58-1

## 青森市まで

- J R
  - 東京駅～新青森駅まで約3時間\* (東北新幹線 はやぶさ・はやて)
  - 新函館北斗駅～新青森駅まで約1時間\* (北海道新幹線 はやぶさ・はやて)
- ※所要時間は最速時間です
- 飛行機
  - 札幌－青森 約45分
  - 東京－青森 約75分
  - 名古屋－青森 約80分
  - 大阪－青森 約90分

## 青森県立保健大学まで

青森駅から約7km、新青森駅から約11km、青森空港から約16km



※1 タクシー

定額料金プランがあります(要予約)。

青森市内 A エリア(会場はこちらに該当します)

片道3,000円(空港有料料金別途)

詳細はホームページでご確認ください。 <https://www.rakurakutaxi.jp/customer/static2/aomori.html>

※2 有料シャトルバス

料 金：300円(おつりの無いようにご準備ください)

運行時間：

9月8日(土)

青森駅発	保健大学前	備 考
8:30	到着まで	シャトルバス大型
8:45	25~30分	シャトルバス小型
9:25	交通事情により前後する可能性あり	シャトルバス大型
9:35		シャトルバス小型

保健大学前発	青森駅	備 考
17:40	到着まで	シャトルバス大型
18:00	25~30分	シャトルバス小型
18:30	交通事情により前後する可能性あり	シャトルバス大型
★ 19:40		シャトルバス大型

9月9日(日)

青森駅発	保健大学前	備 考
8:00	到着まで	シャトルバス大型
8:15	25~30分	シャトルバス小型
9:00	交通事情により前後する可能性あり	シャトルバス大型
9:10		シャトルバス小型

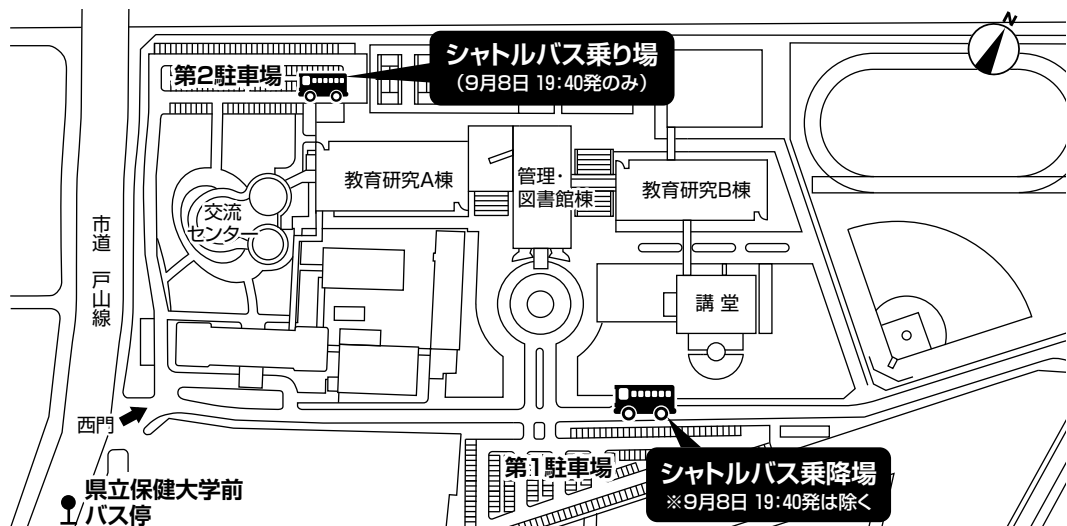
保健大学前発	青森駅	備 考
15:15	到着まで	シャトルバス大型
15:20	25~30分	シャトルバス小型
16:10	交通事情により前後する可能性あり	シャトルバス大型
16:15		シャトルバス小型

★8日(土) 19:40発のシャトルバスのみ、第2駐車場の停留所になりますのでご注意ください。

■青森駅乗降場

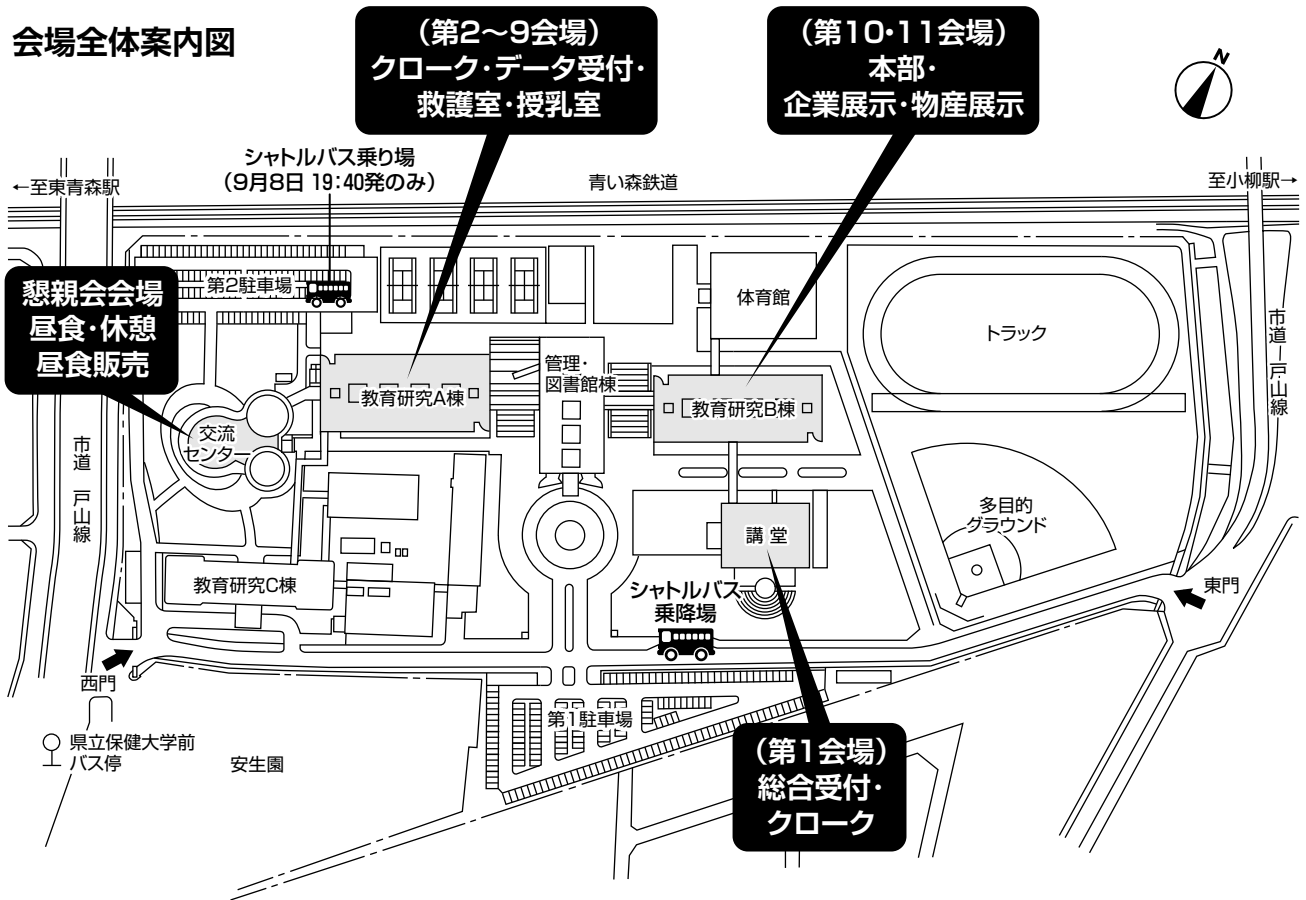


■青森県立保健大学乗降場



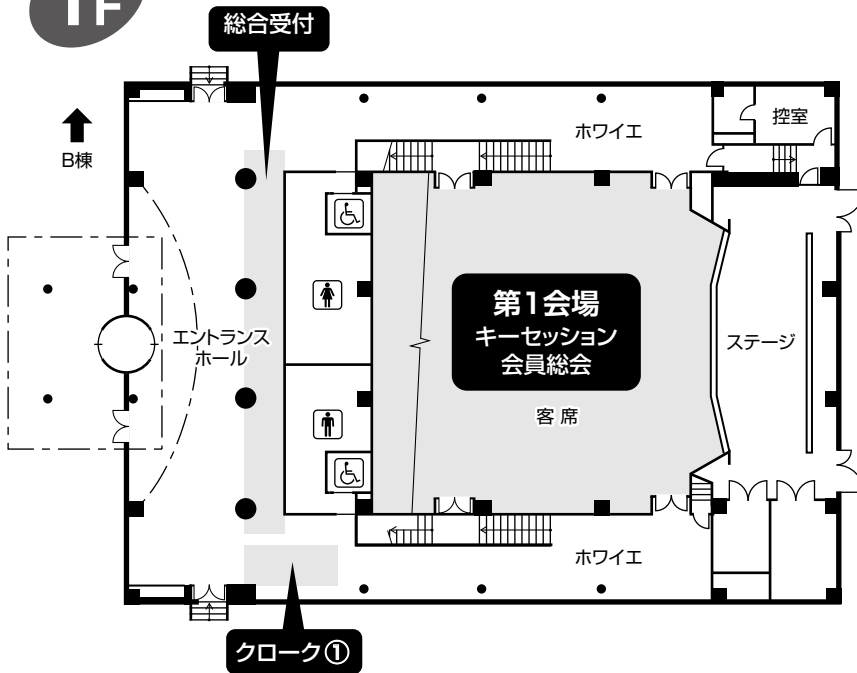
# 会場案内図

## 会場全体案内図



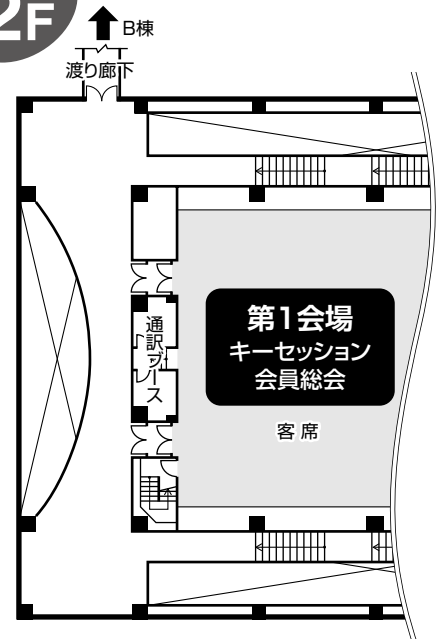
### 講堂

1F



### 講堂

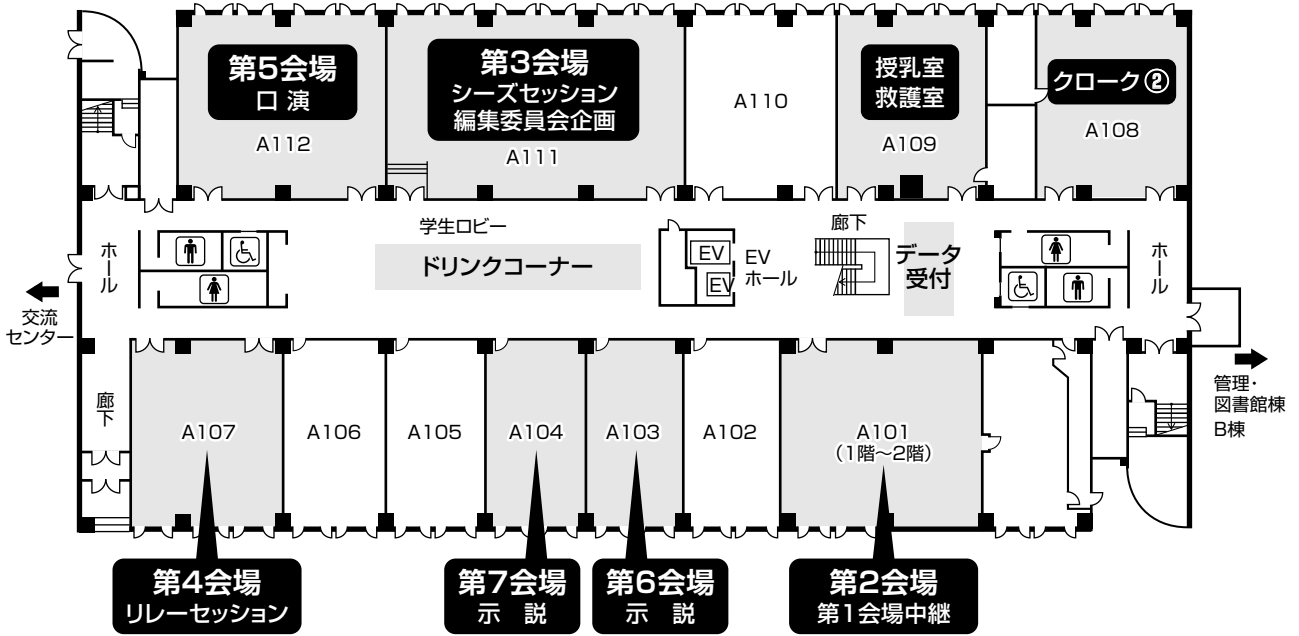
2F





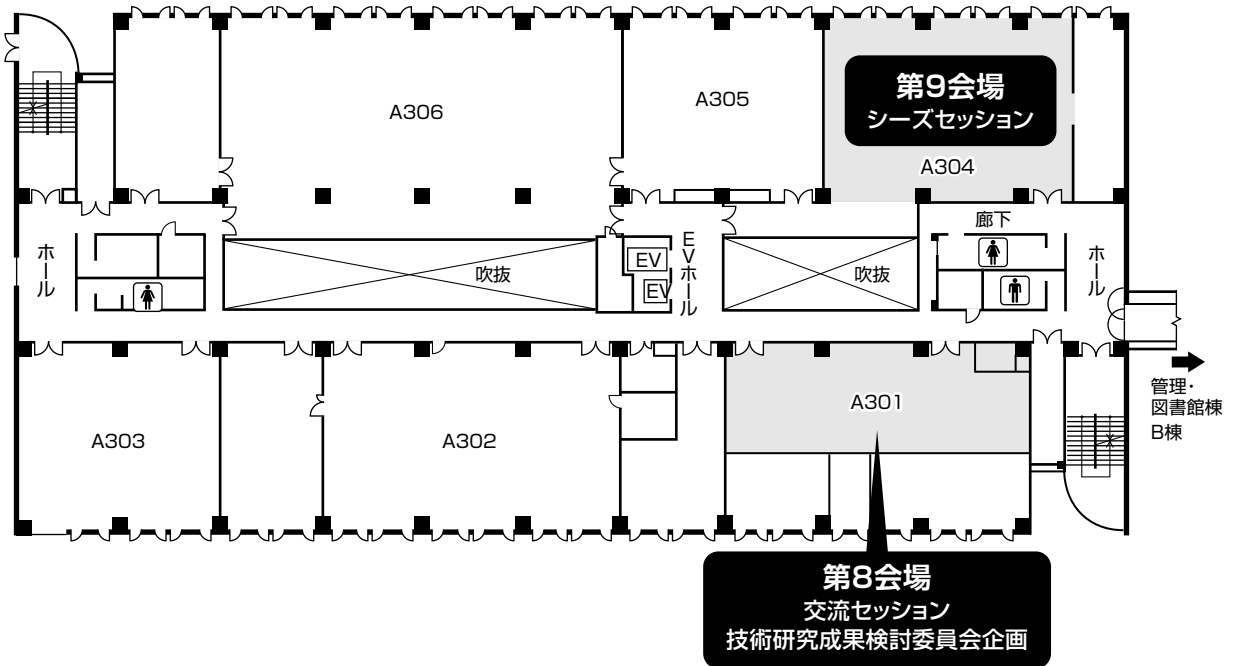
教育研究A棟

1F



教育研究A棟

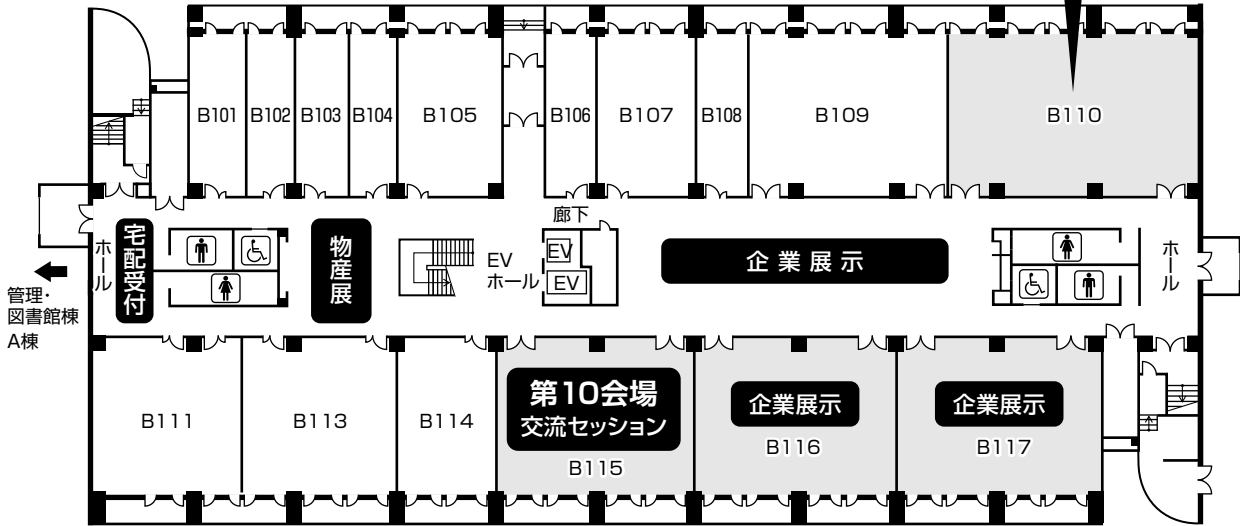
3F



教育研究B棟

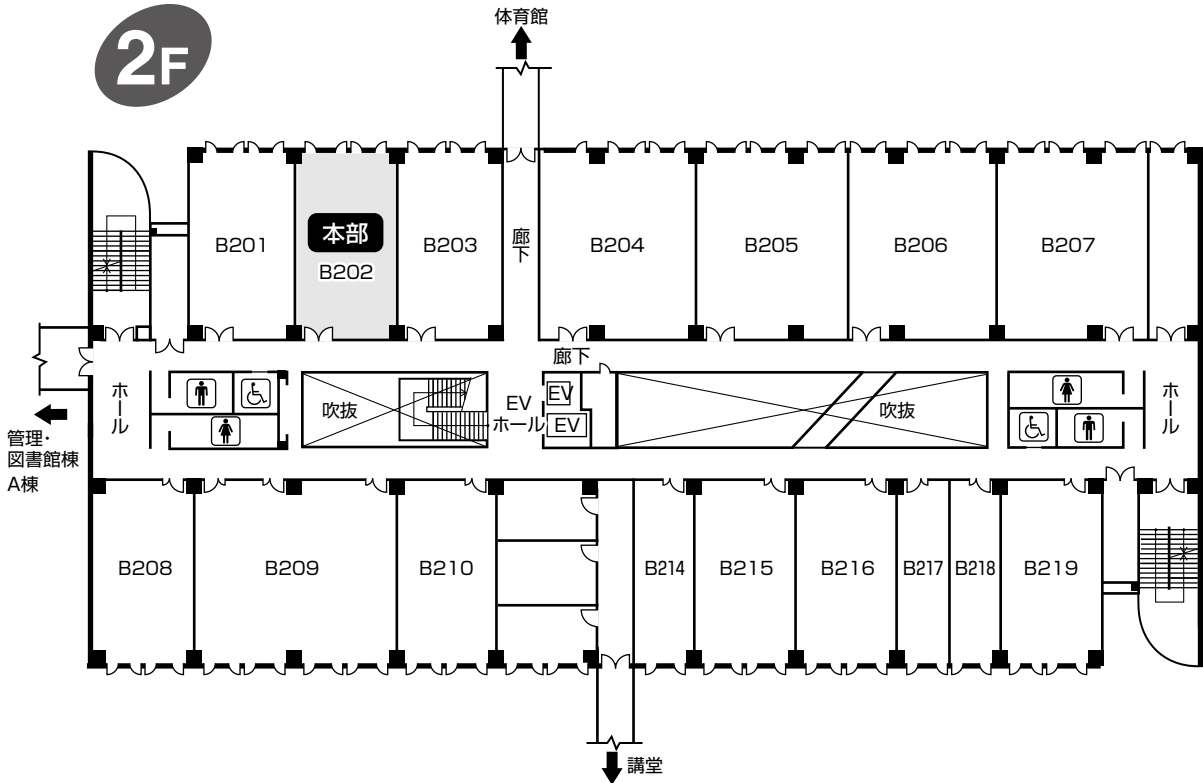
1F

第11会場  
交流セッション  
卒業研究交流セッション



教育研究B棟

2F



# 参加者へのご案内

## 1. 開催時期について

1日目／9月8日(土) 10:00～17:05 受付時間 9:00～17:00  
2日目／9月9日(日) 9:00～14:40 受付時間 8:00～14:00

## 2. 参加受付(総合受付：1階)について

ご入場の際ならびに会場内では、必ず参加証(ネームホルダー)を身につけてください。

### ■事前に参加登録をされている方へ

- ・事前申し込みのうえ、入金を済まされた方には、登録されたご住所に「ネームカード・参加証・領収書、講演抄録集」を8月初旬に事前郵送しております。  
総合案内でネームカードホルダー・コングレスバックをお受け取りください。
- ・「ネームカード・参加証・領収書」は忘れずにご持参ください。なお、送付物の再発行はいたしかねますのでご了承ください。

### ■当日に参加申し込みをされる方へ

- ・「当日受付」で当日参加申込用紙に必要事項を記入のうえ、参加費をお支払いください。
- ・お支払いは現金のみ承ります。
- ・参加費のお支払いと引き換えに、ネームカード・参加証兼領収書、講演抄録集をお受け取りください。

		事前申込み 2018年7月31日(火)まで	当日申込み(現金のみ)
参加費	会員	10,000円	11,000円
	非会員	11,000円	12,000円
	学生(※)		抄録あり 4,000円 抄録なし 2,000円
懇親会費		5,000円	5,000円

※学生とは、看護基礎教育課程の学生を意味し、「保助看」の有資格者は含みません。  
学生の申し込みは、すべて当日となります。必ず受付に学生証をご提示ください。

- ・参加費、懇親会費入金後の事前申し込みの取り消し、返金は、お受けいたしかねますのでご了承ください。

## 3. 懇親会

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

懇親会会場へ入場の際にも、ネームカードをご着用ください。

日時：9月8日(土) 17:30～19:30

場所：青森県立保健大学 交流センター

### ■事前に申し込みされている方へ

- ・ネームカードに、懇親会参加シールを貼付して事前郵送しております。

### ■当日参加を希望される方へ

- ・総合受付にて申込用紙にご記入のうえ、懇親会参加費をお支払いください。参加費は5,000円です。受付にてネームカードに、懇親会参加シールを貼付します。参加を希望される方はお早めにお申し込みください。なお17時以降は、「懇親会会場入り口」にて受付いたします。直接、

懇親会会場へお越しください。

※会場内に荷物置き場をご用意しております。

※懇親会終了後は、シャトルバス(交通のご案内をご参照ください)が利用できます。

#### 4. 講演抄録集の販売

9月8日(土)、9日(日)の両日、「総合受付」にて2,000円で販売いたします。

#### 5. 食事について

- 会場内には食事を提供する施設はございません。持参いただくか、近辺の施設をご利用ください。また数に限りはございますが、11:00～14:00の時間帯に交流センターで、お弁当・パンの販売をいたします。よろしければご利用ください。  
お弁当(限定100食、お茶付き1,000円)は8日・9日両日、パンは8日のみです。
- 食事は交流センター、第2会場をお使いください。その他の会場ではご遠慮ください。
- ゴミ類は所定の場所にお捨てください。
- 会場は、敷地内全面禁煙となっております。ご協力をお願いします。

#### 6. クローク(貴重品以外のお預かり)

クローク①講堂1階、クローク②A棟1階の2か所がございます。

時間：9月8日(土) 9:00～17:00

9月9日(日) 8:00～15:00

※荷物のお預かりは当日のみになっております。

※荷物はできる限りまとめて頂きますよう、ご協力をお願いいたします。

※貴重品、PC等、壊れやすいものはお預かりできません。

#### 7. 宅配について

B棟1階ロビー内に宅配カウンター(ヤマト運輸)を設置します。どうぞご利用ください。

時間：9月8日(土) 13:00～17:30

9月9日(日) 9:00～15:00

※尚、クロネコメンバーズカードでの伝票発行はできませんので、ご了承ください。

#### 8. 会場内の拾得物について

講堂1階総合受付内に総合案内掲示板を設置し、こちらに掲示します。

#### 9. 会場内の撮影・録画等について

会場内の撮影および録音・録画などは一切お断りしております。ただし、示説については発表者にご確認ください。

また、会場内では、携帯電話等はマナーモードにするか、電源をお切りください。

#### 10. 宿泊施設調査ご協力へのお願い

本学術集会は、青森観光コンベンション協会に助成いただいております。そのため、青森県外からの参加で、県内の宿泊施設に宿泊された方々の人数を報告する必要があります。「ネームカード・参加証・領収書」の下の用紙にご記入の上、総合受付、A棟1階、B棟1階に設置の回収箱にご投函ください。ご協力よろしくをお願いいたします。

# 座長・演者へのご案内

## キーセッション、シーズセッション、リレーセッションの座長および演者の方へ

---

- キーセッション、シーズセッション、リレーセッションの座長および演者の方は、講堂1階の総合受付内「座長・演者受付」にお越しください。
- 受付終了後、事前にご案内しております控室にて打ち合わせをお願いします。
- 講演中のPC画面操作は、発表者ご自身による手元操作になります。
- 開始10分前には会場内の次演者席または次座長席にご着席ください。
- 発表データは本学術集会終了後、学術集会責任のもと消去いたします。

## 口演形式の座長および発表者の方へ

---

### I. 座長の方へ

- ご担当群の開始1時間前までに(朝一番のプログラムは受付開始時刻)講堂1階総合受付内の「座長・演者受付」で受付をしてください。
- ご担当群の発表開始時間10分前までに次座長席にご着席ください。
- 発表者に欠席が出た場合は、発表時間を繰り上げて進行してください。
- 直前の演題群が繰り上げて終了しても、ご担当群は予定通り開始してください。
- ご担当群の進行は座長の方にお任せいたします。
- 1演題15分(口演10分、質疑応答5分)です。
- 座長推薦演題の選出については、記入用紙を所定の封筒に入れ、会場係にお渡しください。

### II. 口演形式の発表者の方へ

#### 1. 発表メディア

##### 1) PCの仕様

- OS: Windows10
- パワーポイント: PP2016
- 動画や音声は利用できません。
- アニメーションや画面切り替えなどの効果について動作の保証はできません。PC受付でのデータ保存時にご確認ください。

##### 2) フォント

- 文字化けの恐れがありますので、OS標準のもので作成してください。
- 日本語: MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝
- 英語: Arial、Century Gothic、Times New Roman

##### 3) Power Pointの保存

- 発表者用のデータ保存ファイル名は、「演題番号 発表者氏名」としてください。  
例: 口演-演題番号 O-01の青森花子さんの場合、ファイル名は「O-01\_青森花子.pptx」
- 発表データはUSBメモリに保存したものをお持ちください。  
なお、お持ちいただくUSBメモリは、あらかじめウイルスチェックを行ってご持参ください。
- 予備を含め2つ以上のメディアをご持参いただくことをお勧めします。

#### 4) 発表演題に関する利益相反

- 第17回学術集会では、利益相反状態の有無に関わらず、開示をお願いしています。
- 演題発表に関連し、企業、法人組織、営利を目的とする団体との関係において、過去1年から現在までの間に以下が該当する場合には開示をお願いしています。

- 役員・顧問職・社長などへの就任(1つの企業等からの報酬が100万円以上)
- 株保有・利益(利益100万円以上、または全株式の5%以上の所有)
- 特許権使用料(100万円以上)
- 講演料など(1つの企業等からの合計が50万円以上)
- 原稿料(100万円以上)
- 研究費(委託・共同研究・奨学寄付など200万円以上)
- 寄附講座所属
- 旅費・贈答品報酬受取(1つの企業からの合計が10万円以上)

- 開示スライドの表示

該当するCOI状態について、発表スライドの最初(または演題・発表者などを紹介するスライドの次)に開示していただきますようお願いいたします。

開示スライドの見本は以下の通りとなります。

利益相反(COI)がある場合	利益相反(COI)がない場合
<p>日本看護技術学会第17回学術集会 COI開示 発表者氏名：○○</p> <p>今回の演題に関して開示すべきCOIは以下の通りです。 企業名等：○○会社 役員・顧問職：A製薬 講演料・原稿料等：B出版社</p>	<p>日本看護技術学会第17回学術集会 COI開示 発表者氏名：○○</p> <p>今回の演題に関して開示すべきCOIはありません。</p>

#### 2. 発表者の受付

- 発表の1時間前までに(朝一番のプログラムは受付開始時刻)講堂1階総合受付内の「座長・演者受付」で受付後、A棟1階の「データ受付」にて下記の時間帯にデータの受付と試写を行ってください。
- 発表会場には、発表群の開始時間10分前までにお越しいただき、次演者席にご着席ください。  
受付時間：9月8日(土) 9:00～15:00  
9月9日(日) 8:00～13:00  
※9月9日(日)午前中の発表者は、前日の受付をお勧めします。
- データ受付でお預かりした発表データは、学術集会責任のもと消去いたします。

#### 3. 発表

- 発表時間は、1演題15分(発表10分、質疑応答5分)です。時間厳守でお願いします。
- 発表時に資料を配布することはできません。

## 示説形式の座長および発表者の方へ

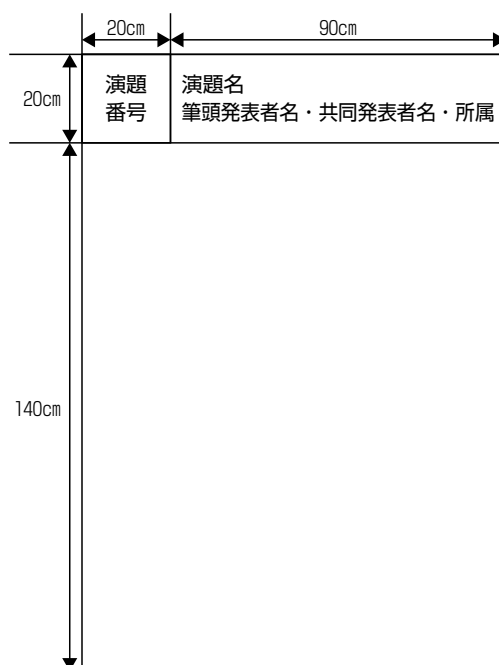
### I. 座長の方へ

- ご担当群の開始1時間前までに(朝一番のプログラムは受付開始時刻)講堂1階総合受付内の「座長・演者受付」で受付をしてください。
- ご担当群の発表開始時間10分前までにポスター会場へお越しください。
- 発表者に欠席が出た場合は、発表時間を繰り上げて進行してください。
- 一般演題示説発表は1演題15分(発表10分、質疑応答5分)です。いずれも時間厳守での進行をお願いいたします。
- 直前の演題群が繰り上げて終了しても、ご担当群は予定通り開始してください。
- ご担当群の進行は座長の方にお任せいたします。
- 座長推薦演題の選出については、記入用紙を所定の封筒に入れ、会場係にお渡しください。

### II. 示説形式の発表者の方へ

#### 1. 示説(ポスター)作成要領

- 掲示スペースは、1演題につき縦160cm×横110cm(左上に20cm×20cmの演題番号が入ります。演題番号は事務局側で用意します。)のポスター掲示パネルを用意します。スペースに収まるようにポスターを作成してください。
- タイトル部分は、縦20cm×横90cmとし、演題番号の右側に演題名、筆頭発表者、共同発表者名、所属を明記してください。その他は、スペースに収まるよう、自由にレイアウトしてください。
- 該当するCOI状態について、ポスター下部に開示してください。開示内容は、口演形式と同様です。開示スライドの見本をご参考の上、記載してください。



#### 2. 発表者の受付

- 発表の1時間前までに(朝一番のプログラムは受付開始時刻)講堂1階総合受付内の「座長・演者受付」で受付をしてください。
- 発表群の開始時間10分前までにポスター会場内のご自身のパネル前で待機してください。
- 発表は、1演題15分(発表10分、質疑応答5分)です。
- 進行は各群の座長の指示に従ってください。

### 3. 示説(ポスター)の貼付・撤去について

- 演題番号・ポスター掲示用の文房具等は、学術集会事務局で用意します。
- 貼付および撤去時間

---

9月8日	貼付	第6会場	11:00～13:00 17:00～17:30(9月9日分)
		第7会場	17:00～17:30(9月9日分)
	撤去	第6会場	16:30～17:00

---

9月9日	貼付	第6・7会場	8:30～9:00
	撤去	第6・7会場	14:30～15:00

※2日目(9月9日)にご発表される方は、前日もしくは当日のどちらかの時間に貼付してください。

- 各日とも撤去時間を過ぎて残っているポスターは学術集会側で処分いたしますのでご了承ください。

### 交流セッションの主催者・関係者の方へ

---

#### 1. 受付

- 代表者はセッション開始の1時間前(朝一番のプログラムは受付開始時刻)までに講堂1階総合受付内の「座長・演者受付」で受付をしてください。

#### 2. 運営方法

- 運営は主催者の責任のもと、主体的に行ってください。準備・後片付けも含めて時間内に終了するようお願いいたします。
- 金銭授受のある活動は禁止します。

#### 3. 会場設備・備品

- PCは主催者でご用意ください。
- PCと会場内備え付けのLANケーブルとは接続できません。
- 会場には、プロジェクター、スクリーン、マイクを用意しています。その他に必要な機材は各自で準備してください。
- 大型の機材・備品の持ち込みを希望される場合は、学術集会事務局(info@jsnas17.jp)へ事前にご連絡いただき、ご相談ください。
- 会場はスクール形式もしくは演習室となっています。会場内の配置変更を希望する場合は、主催者が責任を持って設営準備をしてください。終了後は元の状態に戻し、次のセッションに支障をきたさないようお願いします。

### 卒業研究交流セッションの座長ならびに発表者の方へ

---

#### 1. ポスター作成要領について

- 掲示スペースは、1演題につき縦160cm×横110cm(左上に20cm×20cmの演題番号が入ります。演題番号は事務局側で用意します。)のポスター掲示パネルを用意します。スペースに収まるようにポスターを作成してください。
- タイトル部分は、縦20cm×横90cmとし、演題番号の右側に演題名、筆頭発表者、共同発表者名、所属を明記して下さい。その他は、スペースに収まるよう、自由にレイアウトしてください。ポスター作成のイメージは、一般演題の示説発表をご参照ください。
- 該当するCOI状態について、ポスター下部に開示してください。開示内容は、口演形式と同様です。開示スライドの見本をご参考の上、記載してください。



## 2. 発表者の受付

- 発表の1時間前までに(朝一番のプログラムは受付開始時刻)講堂1階総合受付内の「座長・演者受付」で受付をしてください。
- 発表群開始時間10分前までにポスター会場内のご自身のパネル前で待機してください。
- 発表は、1演題10分(発表7分、質疑応答3分)です。
- 進行は各群の座長の指示に従ってください。

## 3. ポスターの貼付・撤去について

- 演題番号・ポスター掲示用の文房具等は学術集会事務局で用意いたします。
- 貼付および撤去時間

---

9月8日	貼付	第11会場	17:00～17:30
9月9日	貼付	第11会場	8:30～9:00
	撤去	第11会場	11:40～12:10

---

※8日もしくは9日のどちらかの時間で貼付してください。

- 撤去時間を過ぎて残っているポスターは学術集会側で処分いたしますのでご了承ください。

## 大会賞・座長推薦演題についてのご案内

第17回学術集会において、全ての一般演題を対象に大会賞・座長推薦演題の選出を行います。選出された演題については、筆頭演者にご連絡いたします。  
また、学会ホームページ上でも発表をいたします。

研究活動推進委員会

## 会員総会のご案内

日時：9月8日(土) 12:10～13:10

会場：第1会場(講堂)

# タイムテーブル

**1日目** 2018年9月8日(土)

	第1会場 講堂	第2会場 A101	第3会場 A111	第4会場 A107	第5会場 A112
9:00	9:00～ 受付開始				
10:00	10:00～10:20 開会・来賓挨拶	第1会場 中継			
11:00	10:30～12:00 キーセッション1 ジレンマのブレイクスルー： 看護師の抱えるジレンマと ブレイクスルーの様相 演者：角濱 春美 座長：上野 栄一				
12:00	12:10～13:10 会員総会				
13:00	13:10～13:20 大会賞授与				
14:00	13:30～15:00 キーセッション2 現在の看護に感じるジレンマと その源泉：対談 対談：川嶋 みどり 西村 ユミ	第1会場 中継	13:30～15:00 シーズセッション1 療養生活と日常生活 の乖離のジレンマ： 日常生活を組み込んだ 看護ケア リーダー：加藤木 真史 演者：酒井 禎子 大橋 久美子	13:30～14:30 口演1群 採血と輸液に 関するケア 座長：佐々木 新介	
15:00				14:40～15:40 口演2群 温めるケア 座長：城生 弘美	
16:00	15:30～17:00 キーセッション3 伝統と科学のジレンマ： 看護技術は職人技か？ 科学か？ リーダー：武田 利明 演者：高橋 有里 村上 繁子 柳澤 敦子			15:10～15:50 リレーセッション1 演者：小山 敦代	15:50～17:05 口演3群 技術の根拠の 探究 座長：山本 真千子
17:00			15:50～16:30 リレーセッション2 演者：木村 恵美子		

第6会場 A103	第7会場 A104	第8会場 A301	第9会場 A304	第10会場 B115	第11会場 B110	懇親会会場 交流センター
11:00 ↓ 13:00  示 説 貼 付						昼 食 会 場
13:30～14:30 示説1群 手の動作 座長：藤井 徹也				13:30～15:00 交流セッション1 在宅にて『口から 食べる』を支える 摂食嚥下ケア	13:30～15:00 交流セッション3 リラクゼーション法 を看護技術として 実践するための 看護教育の在り方 ～リラクゼーション看 護講座の実績から～	
15:00～16:15 示説2群 姿勢・移動 座長：近藤 由香			15:30～17:00 シーズセッション2 伝統と科学のジレン マ：患者の意思決 定に関わるシャーマ ンの役割 リーダー：藤井 博英 サブリーダー：大山 一志 演者：鳴海 秀雲	15:10～16:40 交流セッション2 痛みのケアの確立 を目指して(その 13) -疼痛ケア技術を 社会と共同して開 発する(5)		
16:30～17:00 示説撤去						
17:00～17:30 9月9日分 示説貼付	17:00～ 17:30				17:00～17:30 卒業研究交流セッション 示説貼付	
	9月9日分 示説貼付					17:30～19:30 懇親会

# タイムテーブル

**2日目** 2018年9月9日

	第1会場 講堂	第2会場 A101	第3会場 A111	第4会場 A107	第5会場 A112
8:30	8:00～ 受付開始				
9:00	9:00～10:30 <b>キーセッション 4</b> 安全と安楽のジレンマ： ディスプレイブルタオルの開発と 普及から リーダー：矢野 理香 演者：深井 喜代子 澁谷 幸	第1会場 中継		9:00～9:40 リレーセッション 3 演者：野月 千春	9:00～9:45 <b>口演4群</b> 注射による 副作用のケア 座長：石田 陽子
10:00				9:40～10:20 リレーセッション 4 演者：角濱 春美	
11:00	10:40～12:10 <b>キーセッション 5</b> 看護の本質と役割のジレンマ： 看護師は何をする人なのか リーダー：上泉 和子 演者：菱沼 典子 嶋森 好子		10:40～12:10 <b>学会企画セッション</b> オンライン投稿の 仕組み 編集委員会	10:20～11:00 リレーセッション 5 演者：柳 奈津子	10:00～11:00 <b>口演5群</b> 看護技術の 臨床適用 座長：茂野 香おる
12:00					
13:00					
14:00	13:10～14:40 <b>キーセッション 6</b> 安全と安楽のジレンマ： 安楽は安全を導く — 抑制しない看護 — リーダー：縄 秀志 演者：小藤 幹恵 川野 恵智子	第1会場 中継			13:10～14:10 <b>口演6群</b> 清潔ケア 座長：岡田 淳子
15:00					

第6会場 A103	第7会場 A104	第8会場 A301	第9会場 A304	第10会場 B115	第11会場 B110	交流 センター
8:30~9:00 示説貼付	8:30~9:00 示説貼付				8:30~9:00 示説貼付	
	9:00~10:00 示説5群 技術教育 座長：篠崎 恵美子	9:00~10:30 交流セッション4 摩擦軽減用具を用いたポジショニングケア「看護運動学」の萌芽へ		9:00~10:30 交流セッション5 改訂 「用具を使って楽に移乗介助を！Q & A 2018」の作成に向けての検討	9:10~10:20 卒業研究交流 セッション1 座長：田中 美智子	
	10:15~11:00 示説6群 臨床教育 座長：渡邊 順子					
10:30~11:30 示説3群 温める・冷やす ケア 座長：佐居 由美		10:40~12:10 学会企画セッション 技術研究成果 検討委員会 看護技術のちから！ジェネラルナースの技術力を高めよう！		10:40~12:10 交流セッション6 グリセリン浣腸の安全な実施に向けた検討と普及について考える	10:30~11:30 卒業研究交流 セッション2 座長：武内 和子	
11:40~12:10 示説4群 睡眠 座長：若村 智子	11:15~12:15 示説7群 技術の 臨床適用 座長：梶谷 京子				11:40~12:10 示説撤去	
						昼 食 会 場
				13:10~14:40 交流セッション7 セルフケア支援の わざ：対話を通じた 支援の可能性	13:10~14:40 交流セッション8 第1回 日本看護技術学 会若手の会 ～看護技術を語らう 若手ネットワークを 作ろう～	
14:30~15:00 示説撤去	14:30~15:00 示説撤去					

# プログラム

**第1日目** 9月8日(土) 会場：青森県立保健大学

## キーセッション1

10:30～12:00

第1会場

**ジレンマのブレイクスルー** 看護師の抱えるジレンマとブレイクスルーの様相

座長：上野 栄一(福井大学学術研究院医学系部門 看護学領域)

### 看護師の抱えるジレンマとブレイクスルーの様相

第17回学術集会 会長：角濱 春美(青森県立保健大学 健康科学部看護学科・健康科学研究科)

## キーセッション2

13:30～15:00

第1会場

**現在の看護に感じるジレンマとその源泉** 対談

### 現在の看護に感じるジレンマとその源泉：対談

対談者：川嶋 みどり(日本赤十字看護大学 名誉教授)

### ジレンマが生まれる意味

対談者：西村ユミ(首都大学東京)

## キーセッション3

15:30～17:00

第1会場

**伝統と科学のジレンマ** 看護技術は職人技か？科学か？

### 看護技術は職人技か？科学か？

リーダー：武田 利明<sup>1)</sup>

演 者：高橋 有里<sup>1)</sup>、村上 繁子<sup>2)</sup>、柳澤 敦子<sup>3)</sup>

1)岩手県立大学 看護学部、2)済生会岩泉病院、3)岩手県立大東病院

### 術後の離床に“生活”の視点を 一歩行を促す看護から、生活行動を促す看護への転換一

リーダー：加藤木 真史（聖路加国際大学）

### 患者の『いつもの暮らし』を知り、支えていく看護をめざして 一高齢がん患者の療養生活に関する調査から一

演者：酒井 禎子（新潟県立看護大学）

### 早朝の患者のニーズをもとにした「快適起床ケア」のすすめ ～日常生活を組み込むモーニングケア～

演者：大橋 久美子（姫路独協大学 看護学部）

### 患者の意思決定に関わるシャーマンの役割

リーダー：藤井 博英<sup>1)</sup> サブリーダー：大山 一志<sup>1)</sup>

発言者：鳴海 秀雲<sup>2)</sup>

1) 東京情報大学、2) 二代元祖津軽イタコ大師匠

### 学生がもつ看護の力

演者：小山 敦代（聖泉大学 学長）

### 相手を想うちから

演者：木村 恵美子（青森県立保健大学）

## 採血と輸液に関するケア

座長：佐々木 新介(岡山県立大学保健福祉学部看護学科)

- O-01 輸液実施部位の中枢側から正確な採血データを得るための実証研究**  
○小池 祥太郎  
青森県立保健大学 看護学科
- O-02 熟練看護師の触診技術を取り入れた採血演習プログラムの開発(第1報)  
動作分析による有効性の検討**  
○杉村 直孝<sup>1)</sup>、矢野 理香<sup>2)</sup>  
1)北海道大学大学院 保健科学院、2)北海道大学大学院 保健科学研究院
- O-03 熟練看護師の触診技術を取り入れた採血演習プログラムの開発(第2報)  
学生の自己評価による有効性の検討**  
○杉村 直孝<sup>1)</sup>、矢野 理香<sup>2)</sup>  
1)北海道大学大学院 保健科学院、2)北海道大学大学院 保健科学研究院
- O-04 末梢静脈留置針挿入に向けて、看護師が挿入可能と判断した  
血管断面積・血管径・深さの検証**  
○安田 佳永<sup>1)</sup>、杉村 直孝<sup>1)</sup>、渡部 一拓<sup>1)</sup>、矢野 理香<sup>2)</sup>  
1)北海道大学大学院 保健科学院、2)北海道大学大学院 保健科学研究

## 温めるケア

座長：城生 弘美(東海大学健康科学部 看護学科)

- O-05 温かくて気持ちいい看護の効果モデルの開発**  
○加藤 京里  
東京女子医科大学
- O-06 湿性および乾性の足浴による皮膚温及び肌水分の変化**  
○渡邊 江身子、池田 万喜子  
(専)京都中央看護保健大学校
- O-07 初回の看護場面における脳血管障害患者の語りを促すケアとしての手浴と足浴の比較**  
○倉 侑菜<sup>1)</sup>、福田 花帆<sup>2)</sup>、杉村 直孝<sup>3)</sup>、安田 佳永<sup>3)</sup>、矢野 理香<sup>4)</sup>  
1)KKR 札幌医療センター、2)北海道大学病院、3)北海道大学大学院 保健科学院、  
4)北海道大学大学院 保健科学研究院
- O-08 安静時体温別による足湯を併用したシャワー浴の温熱効果**  
○秋山 雅代  
天使大学 看護栄養学部 看護学科



## 技術の根拠の探究

座長：山本 真千子(茨城キリスト教大学 看護学部)

## O-09 日本の看護における「全人的ケア」の概念分析

○荻原 典子、水戸 優子、金 壽子

国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院

## O-10 氷の種類によるクライオセラピーの効果

○勝田 奈住

愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院

## O-11 身体接触を用いた会話中の2者間における心拍変動の同期現象と主観的指標の変化に関する検討

○加藤 智史、前田 耕助、習田 明裕

首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域

## O-12 手を微細に振動させる看護ケアは筋硬度を低下させるのか

○山下 哲平<sup>1)</sup>、紙屋 克子<sup>2)</sup>

1) 姫路獨協大学 看護学部 看護学科、2) 京都看護大学

## O-13 圧あり衣服の模擬日勤中の着用が認知機能に与える影響

○吉田 祐子<sup>1)2)</sup>、長島 俊輔<sup>1)</sup>、若村 智子<sup>1)</sup>

1) 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻、2) 北海道大学大学院 保健科学研究院

## 手の動作

座長：藤井 徹也(豊橋創造大学保健医療学部看護学科)

## P-01 末梢静脈留置針挿入時、熟練看護師が血管怒張手技として実践するマッサージ動作の分析

○安田 佳永<sup>1)</sup>、榎本 常子<sup>2)</sup>、杉村 直孝<sup>1)</sup>、矢野 理香<sup>3)</sup>

1) 北海道大学大学院 保健科学院、2) 元札幌通信病院、3) 北海道大学大学院 保健科学研究院

P-02 入院・入所者の安全・安楽を支援するセンサ活用方法の検討  
—握り方に関する基礎的実験—

○山下 智子

心臓血管センター金沢循環器病院

## P-03 手指各部の形態と指の感覚及び力との関係

○深井 喜代子<sup>1)</sup>、安田 千香<sup>2)</sup>

1) 岡山大学大学院 保健学研究科、2) 県立広島大学 保健福祉学部 看護学科

## P-04 高齢者の巧緻性に関する研究の動向

○長岡 宏子

森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科

## 姿勢・移動

座長：近藤 由香（群馬大学大学院保健学研究科）

**P-05 排尿や排便に適した排泄姿勢に関する文献レビュー**

○青木 紀子

東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科

**P-06 看護技術としての移動動作に関する文献検討**○若村 智子<sup>1)</sup>、松本 夏織<sup>1)</sup>、長島 俊輔<sup>1)</sup>、水戸 優子<sup>2)</sup>、國澤 尚子<sup>3)</sup>、平田 美和<sup>4)</sup>、  
小林 由実<sup>2)</sup>、富田川 智志<sup>5)</sup>、西田 直子<sup>6)</sup>1) 京都大学 医学部 人間健康科学科、2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、  
3) 医療生協さいたま地域社会と健康研究所、4) 東京医療保険大学 千葉看護学部 看護学科、  
5) 京都女子大学 家政学部 生活福祉学科、6) 京都学園大学 健康医療学部 看護学科**P-07 インターネットリサーチを用いた看護師のストレッチャー移送に関する全国実態調査**○尾黒 正子<sup>1)</sup>、萩野 哲也<sup>2)</sup>、佐々木 新介<sup>2)</sup>

1) 姫路大学 看護学部 看護学科、2) 岡山県立大学 保健福祉学部 看護学科

**P-08 腹臥位を日常生活に取り入れた高齢者の身体柔軟性・バランス機能への効果  
—6か月間の変化—**○大宮 裕子<sup>1)</sup>、松岡 由美子<sup>2)</sup>、川嶋 みどり<sup>3)4)</sup>1) 西武文理大学 看護学部、2) 前・西武文理大学 看護学部、3) 日本赤十字看護大学 名誉教授、  
4) 健和会臨床看護学研究所**P-09 回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者の歩行の自立に向けて  
～看護師の判断の過程と観察の視点～**○川名 裕治<sup>1)</sup>、水戸 優子<sup>2)</sup>、金 壽子<sup>2)</sup>1) 神戸大学大学院 保健学研究科保健学専攻 看護実践開発学分野 博士課程後期過程、  
2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科

## 在宅にて『口から食べる』を支える摂食嚥下ケア

○水戸 優子<sup>1)</sup>、芳村 直美<sup>2)</sup>、鈴木 恵<sup>3)</sup>

- 1) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、2) 特定医療法人研精会 稲城台病院、  
3) 横浜創英大学 看護学部

## 痛みのケアの確立を目指して(その13)

## 一疼痛ケア技術を社会と共同して開発する(5)

○深井 喜代子<sup>1)</sup>、佐知 亨<sup>2)</sup>、新見 明子<sup>3)</sup>

- 1) 岡山大学大学院 保健学研究科、2) 中津数学塾 代表、3) 川崎医療短期大学 看護科

## リラクゼーション法を看護技術として実践するための看護教育の在り方

## ～リラクゼーション看護講座の実績から～

○柳 奈津子<sup>1)</sup>、岡田 朱民<sup>2)</sup>、内山 美枝子<sup>3)</sup>、小山 敦代<sup>4)</sup>、定方 美恵子<sup>3)</sup>、近藤 由香<sup>1)</sup>、  
箕輪 千佳<sup>5)</sup>、桐山 勝枝<sup>5)</sup>、荒木 大治<sup>6)</sup>、小坂橋 喜久代<sup>7)</sup>

- 1) 群馬大学、2) 佛教大学、3) 新潟大学、4) 聖泉大学、5) 高崎健康福祉大学、6) 武庫川女子大学、7) 京都橘大学

キーセッション4

9:00～10:30

第1会場

安全と安楽のジレンマ ディスポーザブルタオルの開発と普及から

看護職が清拭をする意味と価値：何を目的に清拭をし、何を評価するのか

リーダー：矢野 理香(北海道大学大学院 保健科学研究院)

看護専門性の象徴としての清潔ケア技術の探究

演者：深井 喜代子<sup>1)</sup>、松村 千鶴<sup>2)</sup>

1)岡山大学大学院 保健学研究科、2)香川県立保健医療大学

看護組織で実現する清拭の安全性と安楽性

演者：澁谷 幸(神戸市看護大学 基盤看護学領域基礎看護分野 准教授)

キーセッション5

10:40～12:10

第1会場

看護の本質と役割のジレンマ 看護師は何をする人なのか

看護の本質と役割のジレンマ ー看護師は何をする人なのかー

リーダー：上泉 和子(青森県立保健大学 学長)

看護の本質と役割のジレンマ：看護師は何をする人なのか

演者：菱沼 典子(三重県立看護大学 学長)

看護の本質と役割の重なる場を創り出すこと

演者：嶋森 好子(岩手医科大学 看護学部長)

キーセッション6

13:10～14:40

第1会場

安全と安楽のジレンマ 安楽は安全を導く ー抑制しない看護ー

ー抑制しない看護ーはどうしたら実現できるのか

リーダー：縄 秀志(聖路加国際大学)

高度急性期医療の場での抑制しない看護へのチャレンジ

演者：小藤 幹恵(金沢大学附属病院)

身体拘束縮小に向けた安楽の援助を大切にした安全対策  
Safety-Iから Safety-IIへの認識の転換の経験から

演者：川野 恵智子(八戸市立市民病院 看護局長・副病院長)

## セルフケア能力を高める支援と看護の力

演者：野月 千春(独立行政法人 地域医療機能推進機構(JCHO) 東京新宿メディカルセンター)

## 人間存在を考え続けるきっかけになった事例

一筋委縮性側索硬化症から植物状態で生きていたYさんの事例を通して一

演者：角濱 春美(青森県立保健大学 健康科学部看護学科・健康科学研究科)

## リラクゼーション法によって不快症状は緩和できるか

演者：柳 奈津子(群馬大学)

## O-14 油性徐放性製剤の筋肉内注射後の硬結を予防する看護ケア方法の検討(その1)

一有効なケアに関する基礎研究一

○高橋 有里、武田 利明

岩手県立大学 看護学部

## O-15 油性徐放性製剤の筋肉内注射後の硬結を予防する看護ケア方法の検討(その2)

一有効なケアに関する臨床での評価一

○高橋 有里、武田 利明

岩手県立大学 看護学部

## O-16 輸液に伴う血管外漏出の医療事故の実態

○倉本 直樹、渡邊 順子

静岡県立大学 看護学部

## 看護技術の臨床適用

座長：茂野 香おる（淑徳大学 看護栄養学部）

## O-17 急性期病棟看護師の退院支援に関する役割の認識

○能塚 覚美<sup>1)2)</sup>、堤 千代<sup>3)</sup>

1) 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院、2) 久留米地域包括支援センター、3) 聖マリア学院大学

## O-18 臨床看護師に対する解剖生理学の継続教育の必要性

—脳神経系領域の観点からの検討—

○安田 みなみ<sup>1)</sup>、大久保 暢子<sup>2)</sup>1) 聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士前期(修士)課程、  
2) 聖路加国際大学大学院 看護学研究科 看護技術学・ニューロサイエンス看護学

## O-19 身体拘束疑似体験を通じた看護師の意識変化

○福田 智子<sup>1)</sup>、佐々木 尚美<sup>1)</sup>、中川原 舞子<sup>1)</sup>、佐藤 美由樹<sup>1)</sup>、角濱 春美<sup>2)</sup>

1) 医療法人平成会 八戸平和病院、2) 青森県立保健大学 健康科学部・健康科学研究科

## O-20 臥位状態における実測身長と推定身長の比較検討

○平間 佐知子<sup>1)</sup>、小池 祥太郎<sup>2)</sup>

1) 医療法人平成会 介護老人保健施設ナーシングホーム・オリーブ、2) 青森県立保健大学 看護学科

## 清潔ケア

座長：岡田 淳子（県立広島大学 保健福祉学部看護学科）

## O-21 清拭後の皮膚バリア機能を評価する指標としての角質水分量の有効性と安定性

—経表皮水分蒸散量との比較—

○山口 真弥<sup>1)2)3)</sup>、小川 結衣<sup>2)</sup>、矢野 理香<sup>3)</sup>

1) 北海道大学大学院 保健科学院、2) 北海道大学病院、3) 北海道大学 保健科学研究院

## O-22 綿タオルとディスプレイザブルタオルの部分清拭による皮膚の清浄度と

皮膚バリア機能の経時的変化

○小川 結衣<sup>1)</sup>、土山 啓<sup>2)</sup>、山口 真弥<sup>3)</sup>、杉村 直孝<sup>3)</sup>、矢野 理香<sup>4)</sup>1) 北海道大学病院、2) 社会医療法人社団 愛心館 愛心メモリアル病院、3) 北海道大学大学院 保健科学院、  
4) 北海道大学大学院 保健科学研究院

## O-23 化繊タオルの含有成分の有無による全身清拭効果の比較

○宮脇 健介<sup>1)</sup>、松村 千鶴<sup>2)</sup>、深井 喜代子<sup>3)</sup>

1) 広島国際大学 看護学部 看護学科、2) 香川県立保健医療大学 看護学科、3) 岡山大学大学院 保健学研究科

## O-24 食物アレルギー患児のスキンケアへの介入による保護者の意識変化と今後の課題

○藤河 沙織

国立病院機構 仙台医療センター

## 温める・冷やすケア

座長：佐居 由美(聖路加国際大学 基礎看護学)

**P-10** 殿部への温罨法による硬結予防効果に関連する生理的変化の検証○原 好恵<sup>1)</sup>、西村 直記<sup>2)</sup>、篠崎 恵美子<sup>3)</sup>

1) 朝日大学 保健医療学部 看護学科、2) 日本福祉大学 スポーツ科学部、3) 人間環境大学 看護学部

**P-11** 薬剤性静脈炎発症後に対する冷罨法の効果についての基礎研究

○馬場 磨陽、武田 利明

岩手県立大学 看護学部 看護実証病態学分野

**P-12** 清拭時における冷罨法による肺癌患者の呼吸困難緩和への働きかけ  
～冷却部位の違いによる緩和効果の比較～

○今野 博香

国立病院機 構仙台医療センター

**P-13** 高齢者への清拭時における10秒間温タオル貼用の皮膚表面温度別にみた効果の比較○宍戸 穂<sup>1)2)</sup>、矢野 理香<sup>3)</sup>

1) KKR 札幌医療センター 看護部、2) 北海道大学大学院 保健科学院、3) 北海道大学大学院 保健科学研究所

## 睡眠

座長：若村 智子(京都大学大学院医学研究科・医学部)

**P-14** 看護学生の睡眠の実態とその特徴に関する文献検討○渡部 一拓<sup>1)</sup>、矢野 理香<sup>2)</sup>

1) 北海道大学大学院 保健科学院、2) 北海道大学大学院 保健科学研究所

**P-15** 働く更年期女性における睡眠評価と唾液ホルモン反応○田中 美智子<sup>1)</sup>、長坂 猛<sup>1)</sup>、江上 千代美<sup>2)</sup>、松山 美幸<sup>2)</sup>、尾形 由起子<sup>2)</sup>

1) 宮崎県立看護大学、2) 福岡県立大学

## 技術教育

座長：篠崎 恵美子(人間環境大学看護学部・看護学研究所)

**P-16** 臨地実習における清拭指導場面の教員の教育意図と学生の認識○管原 清子<sup>1)</sup>、高橋 多佳子<sup>2)</sup>、佐野 繁子<sup>2)</sup>

1) 静岡県立大学 看護学部、2) 静岡市立清水看護専門学校

**P-17** 初学者の血圧測定技術習得に教材用血圧計5号機を用いた教育効果

○児玉 裕美、萩原 智子、辻 慶子

産業医科大学 産業保健学部 基礎看護学講座

**P-18** 看護師の観察場面の視線と認知に関する文献検討○松島 正起<sup>1)2)</sup>、角濱 春美<sup>3)</sup>

1) 青森中央学院大学 看護学部、2) 青森県立保健大学大学院、

3) 青森県立保健大学 健康科学部・健康科学研究科

## P-19 ベッドサイドでの点滴確認場面における看護学生の患者への注視の特徴

○松島 正起<sup>1)2)</sup>、角濱 春美<sup>3)</sup>

- 1) 青森中央学院大 学看護学部、2) 青森県立保健大学大学院、  
3) 青森県立保健大学 健康科学部・健康科学研究科

### 示説6群

10:15~11:00

第7会場

#### 臨床教育

座長：渡邊 順子(静岡県立大学 看護学研究科)

## P-20 看護場面の再構成を用いたグループ・エンカウンターによる コミュニケーション技術演習の効果と課題

○土澤 るり

戸田中央看護専門学校 看護学科

## P-21 看護基礎教育を担当する看護教員と医療機関の新人看護師教育担当者がとらえた 卒業時点の学生に求める看護技術修得とその現状

○中村 恵<sup>1)</sup>、唐澤 由美子<sup>1)</sup>、塩原 真弓<sup>2)</sup>

1) 中京学院大学 看護学部、2) 信州大学医学部附属病院

## P-22 看護系大学の臨地実習におけるインシデントに関する文献検討

○細野 恵子

旭川大学 保健福祉学部 保健看護学科

### 示説7群

11:15~12:15

第7会場

#### 技術の臨床適用

座長：梶谷 京子(青森県看護協会)

## P-23 看護師の経鼻吸引技術におけるカテーテル操作の習得に求められる シミュレータ教材の条件

○佐久間 佐織、檜原 理恵

聖隷クリストファー大学

## P-24 腰椎手術患者へのDVDを用いたコルセット装着指導効果

○小野寺 郁実、渡邊 佳代子、阿部 麻奈美

独立行政法人 国立病院機構 仙台医療センター

## P-25 認知症ケアチーム活動3年目におけるリンクナース育成の現状と課題

○富樫 千代美

鶴岡市立荘内病院

## P-26 看護過程から導かれる看護ケアの統合的文献レビュー

○江頭 典江

京都学園大学 健康医療学部 看護学科



## 摩擦軽減用具を用いたポジショニングケア「看護運動学」の萌芽へ

○窪田 静<sup>1)6)</sup>、大宮 裕子<sup>2)6)</sup>、大久保 暢子<sup>3)6)</sup>、佐竹 澄子<sup>4)6)</sup>、小林 由美<sup>5)6)</sup>、佐々木 杏子<sup>5)6)</sup>

1) 愛媛県立医療技術大学、2) 西武文理大学、3) 聖路加国際大学、4) 東京慈恵会医科大学、  
5) 神奈川県立保健福祉大学、6) 技術研究成果検討委員会 ポジショニング班

## 改訂「用具を使って楽に移乗介助を！ Q &amp; A 2018」の作成に向けての検討

○西田 直子<sup>1)</sup>、水戸 優子<sup>2)</sup>、國澤 尚子<sup>3)</sup>、若村 智子<sup>4)</sup>、平田 美和<sup>5)</sup>、小林 由実<sup>2)</sup>、  
富田川 智志<sup>6)</sup>

1) 京都学園大学 健康医療学部 看護学科、2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、  
3) 医療生協さいたま地域社会と健康研究所、4) 京都大学 医学部 人間健康科学科、  
5) 東京医療保健大学 千葉看護学部 看護学科、6) 京都女子大学 家政学部 生活福祉学科

## グリセリン浣腸の安全な実施に向けた検討と普及について考える

○栗田 愛<sup>1)</sup>、吉田 みつ子<sup>2)</sup>、大久保 暢子<sup>3)</sup>、武田 利明<sup>4)</sup>、香春 知永<sup>5)</sup>

1) 人間環境大学、2) 日本赤十字看護大学、3) 聖路加国際大学、4) 岩手県立大学、5) 武蔵野大学

## セルフケア支援のわざ：対話を通じた支援の可能性

○本庄 恵子<sup>1)</sup>、田中 孝美<sup>1)</sup>、木村 慶子<sup>2)</sup>、永利 公見<sup>2)</sup>、加藤 ひろみ<sup>3)</sup>、那須 照代<sup>3)</sup>、  
末永 真由美<sup>4)</sup>、野月 千春<sup>5)</sup>、本館 教子<sup>2)</sup>、酒井 礼子<sup>5)</sup>

1) 日本赤十字看護大学、2) 聖マリアンナ医科大学病院、3) 日本赤十字社医療センター、4) 関東学院大学、  
5) JCHO 東京新宿メディカルセンター

## 第1回 日本看護技術学会若手の会

## ～看護技術を語らう若手ネットワークを作ろう～

○長島 俊輔<sup>1)</sup>、河嶋 亜衣<sup>2)3)</sup>、杉村 直孝<sup>2)</sup>、渡部 一拓<sup>2)</sup>、宍戸 穂<sup>2)4)</sup>、山口 真弥<sup>2)</sup>、  
佐藤 早紀<sup>5)</sup>、安田 佳永<sup>2)</sup>

1) 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻、2) 北海道大学大学院 保健科学院 看護学コース、  
3) 天使大学 看護栄養学部 看護学科、4) KKR 札幌医療センター 看護部、5) 北海道大学病院 看護部

**01 感染拡大防止における電子カルテ使用後の手指汚染の検討**○坂下 優理子<sup>1)</sup>、山根 未来<sup>2)</sup>、岡田 淳子<sup>3)</sup>

1) 県立広島病院、2) 国家公務員共済組合連合会 広島記念病院、3) 県立広島大学 保健福祉学部 看護学科

**02 皮膚・排泄ケア認定看護師による消化管ストーマ造設患者への看護の実際と今後の課題**

○高柳 衣里、管原 清子

静岡県立大学 看護学部

**03 ICUにおいて発生する輸液ポンプのアラームに関する調査研究**○勝亦 恵理香<sup>1)</sup>、倉本 直樹<sup>2)</sup>、渡邊 順子<sup>2)</sup>

1) 地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院、2) 静岡県立大学 看護学部

**04 歯ブラシの洗浄・保管に関する実験的検討**○大幡 加奈<sup>1)</sup>、加藤 洋司<sup>2)</sup>

1) 兵庫医科大学病院、2) 県立広島大学 保健福祉学部

**05 疼痛感受性の左右差の存在有無を明らかにするための実験研究**○木村 かん奈<sup>1)</sup>、足立 莉穂奈<sup>2)</sup>、竹中 沙耶<sup>3)</sup>、柳本 安耶<sup>2)</sup>、石井 雄大<sup>5)</sup>、  
岡山 貴史<sup>4)</sup>、片山 詩穂<sup>5)</sup>、澤中 秀敏<sup>5)</sup>、掛田 崇寛<sup>5)</sup>1) 兵庫県立加古川医療センター、2) 兵庫県立尼崎総合医療センター、3) 神戸市立医療センター中央市民病院、  
4) 近畿大学医学部附属病院、5) 関西福祉大学**06 ポジショニング介入により影響をうける生理的指標及びその介入方法の検討**○小林 優紀<sup>1)</sup>、松田 友美<sup>2)</sup>、進藤 真由美<sup>2)</sup>、石田 陽子<sup>2)</sup>1) 公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院、  
2) 山形大学大学院 医学系研究科 看護学専攻・医学部看護学科**07 療養環境に対して看護師が実施する効果的な環境整備**○藤本 祐実<sup>1)</sup>、高橋 葉子<sup>2)</sup>

1) 医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院、2) 札幌市立大学 看護学部 基礎看護領域

## 08 綿タオル及び化繊ディスポーザブルタオルを用いた清拭の保温性とリラックス効果の比較

○植松 春香<sup>1)</sup>、檜山 明子<sup>2)</sup>

1)医療法人 深仁会 手稲深仁会病院、2)札幌市立大学 看護学部 看護学科

## 09 エアマットレスに対するずれにくいベッドメイキングの検討 —三角法と結び法の比較—

○高津 愛結<sup>1)</sup>、竹内 朋子<sup>2)</sup>、小林 美綺<sup>3)</sup>、齋藤 このみ<sup>4)</sup>、玉井 夏帆<sup>5)</sup>、前田 奈那子<sup>5)</sup>、八島 あやめ<sup>6)</sup>、由井 愛莉<sup>7)</sup>、横畑 智洋<sup>5)</sup>、渡辺 千華子<sup>3)</sup>、安部 茉里<sup>8)</sup>、松平 明日絵<sup>2)</sup>、岩淵 起江<sup>2)</sup>、原口 昌宏<sup>2)</sup>

1)東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター、2)東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部、3)社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市東部病院、4)日本医科大学付属病院、5)独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター、6)独立行政法人 国立病院機構 東京病院、7)公益財団法人 がん研究会 有明病院、8)昭和大学病院

## 10 災害時に必要な多職種連携におけるコミュニケーションの促進に向けた教育内容の文献レビュー

○田附 優海<sup>1)</sup>、西川 未来<sup>2)</sup>、岩崎 文枝<sup>3)</sup>

1)自衛隊中央病院、2)自衛隊札幌病院、3)防衛医科大学校 医学教育部 看護学科

## 11 ハッカ油を用いた温罨法が排便促進に及ぼす効果

○武藤 真里奈<sup>1)</sup>、渡邊 順子<sup>2)</sup>、倉本 直樹<sup>2)</sup>

1)公立大学法人 横浜市立大学付属病院、2)静岡県立大学 看護学部

## 12 皮脂量の違いが清拭による皮膚バリア機能に与える影響

○土山 啓<sup>1)</sup>、小川 結衣<sup>2)</sup>、山口 真弥<sup>3)</sup>、杉村 直孝<sup>3)</sup>、矢野 理香<sup>4)</sup>

1)社会医療法人社団 愛心館 愛心メモリアル病院、2)北海道大学病院、3)北海道大学大学院 保健科学院、4)北海道大学大学院 保健科学研究所

## 13 刺激系のアロマオイルによる嗅覚刺激が生理反応および心理反応に及ぼす影響

○傳田 萌子<sup>1)</sup>、田中 裕二<sup>2)</sup>、雨宮 歩<sup>2)</sup>、菅原 久純<sup>2)</sup>、加瀬 竜太郎<sup>2)</sup>、小宮山 政敏<sup>2)</sup>

1)千葉大学医学部附属病院、2)千葉大学大学院 看護学研究科 生体看護学専門領域

### オンライン投稿の仕組み

佐伯 由香<sup>1)</sup>、岡田 忍<sup>2)</sup>、佐藤 正美<sup>3)</sup>、岡田 淳子<sup>4)</sup>、野本 百合子<sup>5)</sup>、早瀬 良<sup>6)</sup>

- 1) 愛媛大学大学院 医学系研究科、2) 千葉大学大学院 看護学研究科、  
3) 東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科、4) 県立広島大学 保健福祉学部 看護学科、  
5) 愛媛県立医療技術大学 保健科学部 看護学科、  
6) 中部大学 生命健康科学部 保健看護学科

### 看護技術のちから！

### ジェネラルナースの技術力を高めよう！

大久保 暢子、武田 利明、吉田 みつ子、縄 秀志、菱沼 典子、西田 直子、  
水戸 優子、加藤木 真史

日本看護技術学会 技術研究成果検討委員会

# キーセッション

## 看護師の抱えるジレンマとブレイクスルーの様相

第17回学術集会 会長：角濱 春美

青森県立保健大学 健康科学部看護学科・健康科学研究科

ジレンマ(dilemma)とは、di(二つの)-lemma(仮定・前提)であり、ある問題に対して2つ以上の選択肢が存在し、どちらを選んでも何らかの利益・不利益があり、態度を決めかねる状態である。俗にいう「winwin」が見当たらない状況であり、人は最適解を求めて何らかの選択をすることとなる。

看護技術実践のジレンマについて考えてみよう。看護技術の要素として、「安全」かつ、「安楽」かつ、「コストが最小限(時間、労力、金、物等)」が挙げられている。これらの因子が「かつ」で結ばれ、すべての条件が揃うことで、看護技術の完成度が上がると考えられる。

しかしながら、看護実践の場では、「かつ」が成り立たず、これらの要素の優先度を選択しなければならない局面が多い。「安全」よりも「コスト」優先、「安全」は全ての前提(安全第一)、「安楽」ならば「安全」である等、様々な様相が考えられる。湯たんぽの熱傷事故から、熱い湯を使う全ての技術を禁止する、患者に血圧値を伝えたことでトラブルがあり、多くの労力を割いたことから、全ての患者にバイタルサイン測定値を伝えてはならないというルールを作る等。これら優先度を決定しなければならない局面では、個人や組織がどのような「価値」を持っているかで行為の選択が変わる。

看護師は、専門職として成り立つうえで「倫理観」という価値を共有している。看護におけるジレンマの多くは、倫理観に照らして、このような看護が提供されるべきということは自明であるのに、その行動がとれない、という、現実のジレンマである。しかし、倫理原則の間でもジレンマが生じ得る。あと数日で死にゆく人に身体拘束を行うことについて、看護師が患者のそばで手を握っているという看護を提供したことがあった。これを事例提供した際に、「平等でない」ことへの懸念が強く示された。この事例では、「看護者は、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重する」、「看護者は対象となる人々に平等に看護を提供する」、いずれも倫理的規範に則った考えの間でジレンマが生じている。一律であることを平等というならば、患者に合わせた個別性とは相いれないものである。この問題についてどのように考えれば良いのだろうか。

看護実践の局面でのジレンマを受け止め、何らかの最良の選択をしていくためには、まず、成熟した看護技術、「かつ」を目指した技術開発をし続けることが重要であると考えられる。看護技術が、看護の目的にどの程度かなうものか、安全が確保でき、安楽をもたらすことができる方法か、コストは患者にもたらす効果に見合っているのか、研究的手法によって開発し、これを普及させていく必要があると考えられる。これは本学会の持つ責務でもあろう。

次に「価値の創造」の問題である。そもそも、看護に価値を見出すこと、患者への影響力についての自覚が必要であると考えられる。新しい看護技術を導入した看護師にインタビューを行う機会があった。その技術は現時点では「安全」かつ「安楽」ではあるが、看護師の労力を割かなければならないものであった。看護師たちは周囲の反対に粘り強く対応し、湧き上がってくる問題の一つひとつ対応して技術の導入を進めていた。「どうしてそのように頑張れるのか?」と思わず尋ねたところ、「心残りの看護を行った経験」と、「看護基礎教育」を挙げた。「看護はこのようなあったら良い」という理想を、現実が変えられる力を持つまで温め、戦略をもって現実を変えること、看護に高い価値を置くことが重要だと実感した。そして、看護基礎教育の果たすべき役割について、看護の生き生きとした価値の伝承が必須であると考えている。

21世紀には、マニュアルで判断できる職業はAIに代替されると言われている。生き残る仕事は、単純なアルゴリズムでは対応できない仕事、つまり、ジレンマが存在し、最適な選択に至るまでに様々な要因の検討と注意深い判断が必要な仕事である。看護の仕事はこれに当てはまるであろうか。最低限、患者たちが必要としているのは、AIに代替されるような仕事ではないだろうと考える。

## 略歴

東京慈恵会医科大学での看護師経験を経て、同医学部看護学科助手、開学時より青森県立保健大学で勤務。2006年より学部長。聖路加看護大学(現聖路加国際大学)博士課程修了、看護学博士。高齢者の生活リズムに関する研究を基盤に、看護技術やその背景理論について研究を行っている。

# 日本看護技術学会第17回学術集会

## 組織委員

---

大会長	角濱 春美	青森県立保健大学
-----	-------	----------

---

事務局長	藤本 真記子	青森県立保健大学
------	--------	----------

---

企画委員 (50音順)	市川 美奈子	青森県立保健大学
	上野 栄一	福井大学
	上泉 和子	青森県立保健大学
	木村 恵美子	青森県立保健大学
	小池 祥太郎	青森県立保健大学
	小林 昭子	青森県立保健大学
	佐藤 真由美	弘前大学
	高橋 有里	岩手県立大学
	鄭 佳紅	青森県立保健大学
	沼田 祐子	青森県立保健大学
	福井 幸子	青森県立保健大学
	榎谷 京子	青森県看護協会
	松島 正起	青森中央学院大学
	村上 眞須美	青森県立保健大学
	矢野 理香	北海道大学
四谷 淳子	福井大学	

---

## 広告・展示企業 団体一覧

### 広告

---

株式会社 医薬広告社

株式会社 インターメディカ

株式会社 南江堂

株式会社 日本看護協会出版会

株式会社 メヂカルフレンド社

株式会社 メディカ出版

### 展示

---

株式会社 エーワンテクニカ

株式会社 京都科学

株式会社 高研

株式会社 彩生舎

株式会社 坂本モデル

サンスター株式会社

東洋羽毛北部販売株式会社

豊島株式会社

日医工株式会社

株式会社 VIP グローバル

株式会社 メルシー

株式会社 ヤマト

株式会社 UGA & Co.

ルベラス ウエノ



日本看護技術学会第17回学術集会  
講演抄録集

---

2018年8月発行

会 長：角濱 春美

事務局：青森県立保健大学内  
〒030-8505 青森市浜館字間瀬58-1  
FAX：017-765-2055  
E-mail：info@jsnas17.jp

出 版：株式会社セカンド  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025  
<http://www.secand.jp/>



